

平成 2 年度赤潮貝毒監視事業

(貝毒調査 : 抄録)

大塚 弘之・吉田 正雄・萩平 将

徳島県における二枚貝類の毒化現象は、調査を開始した昭和 54 年以降、毎年みられており、貝類の食品としての安全性を確保するため、昭和 55 年度より水産庁の委託または補助を受け、特定有毒プランクトンの動向並びに二枚貝類の毒化実態調査を実施している。

平成 2 年度の貝毒調査で実施した、有毒プランクトンの出現動向およびアサリの毒化実態調査における結果は次のとおりである。

なお、詳細については「平成 2 年度赤潮貝毒監視事業報告書 (貝毒調査)」を参照されたい。

1. *Alexandrium tamarense* は、平成 2 年 4 月および 3 年 2~3 月に出現し、最高出現数は、橘湾 T0 - 3 での 900cells / ℓであった。出現時期の水温は 11.1~14.3 , 塩分は 25.1~32.5 の範囲であった。

2. *A. catenella* は、平成 2 年 4 月~7 月に出現し、最高出現数は、橘湾 T0 - 4 での 18,600cells / ℓであった。出現時期の水温は 14.2~27.3 , 塩分は 29.3~31.5 の範囲であった。

3. *Dinophysis fortii* はほとんど出現がみられず、平成 2 年 4 月に橘湾 T0 - 4 で 100cells / ml, 6 月に内の海 T0 - 1 で 100cells / mlそれぞれ出現しただけであった。出現時期の水温は 13.1~20.8 , 塩分は 31.5~32.2 の範囲であった。

4. *D. acuminata* は、平成元年 4 月, 6~7 月に出現し、最高出現数は、内の海 T0 - 1 での 700cells / ℓであった。出現時期の水温は 13.1~26.0 , 塩分は 26.2~32.2 の範囲であった。

5 本年度は、いずれの海域においてもアサリから麻痺性貝毒, 下痢性貝毒ともに全く検出されなかった。